

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2374700249		
法人名	株式会社 ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家 いわくら		
所在地	岩倉市大山寺町井之株172-1 (電話) 0587-37-4881		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年8月20日	評価確定日	平成19年9月15日

【情報提供票より】(平成19年7月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年10月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 4人, 非常勤 19人, 常勤換算 3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	55,500 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 420 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,220 円		

(4) 利用者の概要(平成19年7月28日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	3名	要介護2	10名
要介護3	4名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 85.7 歳	最低 63 歳	最高 99 歳
協力医療機関名	岩倉病院・岩倉中央歯科・丹羽外科		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家族との関わりが丁寧に確実に行なわれ、各入居者の様子がわかり安心感を与えている。入居者ができることは自分で行っていただけるよう、「その人がその人としてその人らしく生きることを支援し続けること」の法人の理念に基づき、その人のペースに合った対応をしている。地域交流も自然な形で深まってきて、子ども達が自由に行き来し開放的になっている。家庭菜園の野菜で漬物作り、入居者の作品の新聞記事の掲示、玄関には職員の顔写真も掲げられている。今後は、連携医療機関との関わり方を考慮して更に安心とその人らしさを大切に取り組んでいくことに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については、ミーティングで話し合い、毎日入浴が提供できるようにしたり、お小遣い帳に欄をつくり家族にサインをもらう、協力医の往診の実施等、改善しサービスの質の向上に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価に取り組んだ。記述式で書き方が難しく、理解できない職員もいた。管理者からはわかることを記述するようにと説明された。評価の意義についておおまかな話はあったが全職員が理解するには至らなかった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	区長、民生委員、地域包括支援センター職員、入居者、入居者家族、職員のメンバーで構成され、平成18年の7月より7回開催している。内容は、活動報告、外部評価の結果報告、改善課題への取組みなどで、メンバーから積極的に質問や意見、助言があり、子ども110番の申請、職員の顔写真の掲示等を実施した。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱が玄関に設置されているが、家族は直接管理者に意見や要望を伝えている。いただいた意見は真摯に受け止め、申し送りの場で職員に伝え改善に向けて取り組んでいる。また、家族の訪問時に管理者から積極的に話す機会を設け聞くよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の祭りに参加したり、事業所の夏祭りには、近所の人や子ども達が大量参加している。夏祭りをきっかけに交流が増え、日常的に子ども達があそびにくるようになった。子ども110番の家にもなっている。地域の一員として自発的にごみステーションの掃除をしたり、事業所の周りを入居者と職員と一緒に掃除をしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人がその人としてその人らしく生きるために支え続けることを使命とします」という理念は会社の理念を共有しており、今後事業所独自の理念をつくりあげていきたいと考えている。		運営推進会議を通して事業所独自の理念をつくっていく予定であることから、地域密着型サービスとしての役割を目指した理念を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	誰でも見やすいように理念は玄関に掲示されている。申し送りや各階のミーティング時に理念を唱和している。「その人らしい生活」を常に意識し「自分がそうされたら？」と立場を置き換え考え、職員の都合になっていないか見直すよう管理者は話をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の祭りに参加したり、事業所の夏祭りには、近所の人やこども達が大勢参加している。夏祭りをきっかけに交流が増え、日常的にこども達があそびにくるようになった。こども110番の家にもなっている。地域の一員として自発的にごみステーションの掃除をしたり、事業所の周りを入居者と職員と一緒に掃除をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に取り組んだ。管理者は評価の意義について理解している。職員には、評価についてのおおまかな話はあったが全職員が理解するには至らなかった。前回の評価結果については、ミーティングで話し合い、毎日入浴が提供できるようにしたり、お小遣い帳に欄をつくり家族にサインをもらう、協力医の往診の実施等、改善しサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>区長、民生委員、地域包括支援センター職員、入居者、入居者家族、職員のメンバーで構成され、平成18年の7月より7回開催している。内容は、活動報告、外部評価の結果報告、改善課題への取り組みなどで、メンバーから積極的に質問や意見、助言があり、こども110番の申請、職員の顔写真の掲示等を実施した。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の生きがい課に運営推進会議についてや困っていること等相談にのってもらっており、月1回程度は足を運んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>状態に変化があった場合は、電話で伝え「家族への電話連絡ノート」に記録し情報の把握に努めている。家族の訪問は多く、管理者、フロアー長、計画作成担当者のいずれかが対応できるよう体制をとって家族の訪問時に説明している。1、2階でホーム便りを毎月発行し家族に送付している。状態に変化が生じた場合や入居間もない方等について、状態や様子を手紙に記しホーム便りと一緒に送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱が玄関に設置されているが、家族は直接管理者に意見や要望を伝えている。いただいた意見は真摯に受け止め、申し送りの場で職員に伝え改善に向けて取り組んでいる。また、家族の訪問時に管理者から積極的に話す機会を設け聞くよう努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>役職者の法人内異動はあるが頻回ではない。1、2階の職員が交代することもあるが、各ユニットの特性や職員の性格等を考慮し慎重に行い、入居者にダメージを与えないよう努めている。管理者は半年に1回職員と個人面談を実施している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修では業務の流れを説明し、まず職員に付き様子をみてもらう。その後1カ月間現場研修を行い、管理者と面談している。同行記録を毎日書き、担当職員に提出している。外部研修として、愛知県グループホーム協議会の研修に参加している。受講者は感想文を書き、ミーティングで報告するが、現在は時間が取れないため、職員に目を通してもらうようにしている。</p>		<p>外部研修には、正職員、パート職員関わらず参加する機会があるが自由参加となっている。今後は内部の勉強会や職員の段階に応じた研修への参加を促すよう期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>愛知県グループホーム協議会に加入しており、研修や相談委員会に参加している。相談委員会は運営に関する内容が多いが、今後は職員にも参加してもらうよう考えている。法人内のグループホームとの交流はある。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談から利用に至るまでの間に、1度は本人に来てもらうよう家族にお願いしている。体験利用は設けていないが、いつでも見学に来てもらい馴染んでもらうよう声をかけている。本人と面談ができない場合は、事業所から病院や施設に出向き様子を見たり、面談等を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>朝の掃除は入居者と職員が一緒に行っている。漬物の漬け方や料理、裁縫、畑仕事等、職員は生活の知恵を入居者から教えてもらうことが多い。入居者それぞれに合った役割をもってもらい、共に支えあう関係を築いていけるよう努力している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「その人らしい生活」を支援することを意識し、職員は気づいたことはノートに記し、色々な角度から入居者の把握に努めている。入居者の言動や行動でわからない時は家族に聞いている。今までの趣味や経験を継続してもらえるよう支援し、カラオケに出かけている入居者もいる。外食や誕生日会では、入居者に希望を出してもらい応えている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員が1ユニット9名の入居者の現在の介護計画について評価し、それを基にフロー長と計画作成担当者がケースカンファレンスを行い、介護計画を作成している。家族には訪問時に意見や要望を聞いている。介護記録には、サービス内容の欄に支援内容を載せ、職員が計画を意識してケアを提供できるよう努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3カ月毎に見直しを行っていて、必要に応じて新たな計画を作成している。計画作成担当者が見直し時期の前に評価を全職員にしてもらう。大きな点は変わらなくても必ず変化はあるので同じ文章にはならないと職員にも伝えられている。日々の関わりの中で言動、行動の変化に気づき、それによって対応の仕方、促し方が変わってくるとの認識から見直しの重要性を理解している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の関わりも大切にしているので原則かかりつけ医の通院介助は家族に依頼しているが、その時の状況に応じ、事業所側で対応している。非常勤看護師が、時間外でも臨機応変に電話対応、状態確認を行っている。移動理美容は2年ほど同じ所で、理美容師達も入居者達の意向を把握し、専属に担当している。おしゃれが十二分に楽しめると好評である。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>現在、かかりつけ医の受診に重きを置いた支援がなされている。家族、かかりつけ医、事業所間の連携も上手くいっている。報告を受けたものが「受診記録」に記載する。経過、内容など誰が見ても把握できる。提携医療機関は、夜間、緊急時等対応できない。今後かかりつけ医との関わりを大切にするとともに提携医療機関の充実性について検討している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期については入居時に話をしている。早い段階から特別養護老人ホーム、老人保健施設への入所も提案しているが、その時の入居者の状態、家族の協力体制、事業所の対応環境、医療機関との連携等を考慮して取り組んでいる。入居者の状態変化が生じた時、本人、家族と話をしている。管理者は職員からも意見や思いを聞き皆で方針を共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>管理者は常に職員に「だめ」と言わないように伝え、入居者一人ひとりの尊厳を大切にしている。誤解を招くような会話や風景にも注意するようにし、各フロアー長、計画作成担当者にも日々の関わり方について留意を依頼している。個人記録の保管、取り扱いについては十分気をつけて取り組んでいる。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>規則正しい生活をして頂きたいという思いから、食事の時間についてはなるべく守って頂くようにしている。途中から居室で食べなくなった入居者には、そのように対応し時間を遅らせて摂ったりすることもある。月1度の1、2階合同バイキング時には、お酒も出され自由に飲める。毎入浴後にビールを飲む習慣の方、外食時等、希望にそって支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連の流れを入居者と職員で行っている。買い物には毎回、一人の入居者が一緒に行く。献立は広告を見て決めたり、冷蔵庫の食材で決めている。準備、盛り付け、片付け等一人ひとりができることに参加してもらっている。食器については入居者の混乱を避けることから、箸のみ個人持ちとしている。食事時間も入居者のペースに合わせゆっくりととられていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則毎日入浴可能としている。時間については午後の対応となっているので、その日の天気、入居者の様子に応じて外出に当てられることもある。入浴を希望されない人について、有名人の写真を入浴入り口に貼ったり、1時間位かけてゆっくり楽しめるよう歌を歌ったり、仲良しの入居者と一緒に入ったりと工夫をし、楽しむ事ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	継続的な支援としてカラオケ教室に週1度通っている人には続けてもらい、大会にも参加してもらっている。裁縫が得意な人には古い着物を購入し、新たに他のものを作ったりしている。畑の好きな人には家庭菜園に関わってもらっている。一人ひとりが楽しみながら、役割をもって過ごしている。このような生活の場面から新たな支援につながるよう取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月少し遠出の計画をたて、季節に応じた楽しみ方を工夫している。買い物の帰りに喫茶店に寄ったり、個別にその時、その人が望んでいる支援を極力している。現在、家族に声をかけて合同で出かけるまでには至っていないが、随時居合わせた家族には声をかけて食事、喫茶店など一緒に参加してもらっている。今後は家族とも出かけられる機会を計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることなく外出したような入居者には職員と一緒に付き添って出かけている。どうしても帰所が困難な時には、他の職員が車で迎えに行き気持ちよく乗車して帰所に至る。この際、時間帯、職員人数により一時施錠をすることがある。鍵をかけない工夫をしていつでも開放的な玄関となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回点検業者の人と夜間、昼間を想定し職員、入居者で行っている。2階の入居者に限っては、毎月階段降りの訓練を行っている。地域の人達の協力が得られるよう運営推進会議で伝えている。今後は消防署の人達との訓練も考慮している。備蓄品は会社として今年中に事業所に3日分を確保できるよう準備中である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による管理は行っていない。一人ひとりの摂取状況を職員が把握し、その時々に応じて本人の好みの食事も提供している。水分は1日1000ml程を目安にしているが管理を必要としている人に対しては、毎日水分摂取量を記録している。リビングにはいつでも自由に水分補給ができるよう、お茶、レモン水等置いている。週1度体重測定を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファが多く置かれ、入居者が思いのままに1人で、または、皆で過ごす事ができる。来訪者も気軽に玄関先で椅子に掛けて話をする事ができる。季節にちなんだ手作り作品、お出かけや行事等の写真、手作りカレンダーは毎日入居者によって変えられている。もとは社員寮であったため1階の浴室は段差があるが職員が注意して介助している。気持ちが落ち着かない時等「千の風になって」をかけると穏やかになり試みている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット以外は、本人の使い慣れた馴染みの物で揃えられている。たくさんの植木鉢、メダカ、愛犬の写真、位牌、壺を敷いて炬燵も置かれていた。化粧を毎日する人はたくさんの化粧品セットが揃えられていた。各入り口には板に墨で名前が書かれていた。居室は入居者が掃除を行って清潔に保たれている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。